

# 令和4年度の教育研究

1. 研究テーマ 学ぶ意義を考え、学びに向かう力を育む授業改善  
～生徒と共につくる新しい学び～

## 2. 研究内容・研究方法

- ICTを積極的に活用し、個別最適化された学びと協働的な学びのある授業実践を蓄積する。  
⇒授業にとどまらず学校生活のあらゆる場面におけるICTの活用の推進  
⇒生徒会活動の積極的なICT活用の支援  
⇒HP未来を創る「附中×GIGA」による実践の発信

### 【研究推進の3つの柱】

#### ①学ぶ意義を考え、見出させる授業力向上

##### ア、主体的な学びにつながる学習記録の活用

「何ができるようになったか」という変容を捉え、「その変容をどう検証するか」を協議する  
振り返りをもとに自らの学ぶ意義を見出し、将来に目を向けるように支援する  
主体的に学ぶ態度について「調整力」の看取り方を検証する

##### イ、「問い」の工夫のある授業

子どもが頭を働かせるよう促す仕掛け「問い」を授業に位置づける  
新大分スタンダードと関連づけて理論研究を行う  
単元計画に位置づける

#### ②主体的・対話的で深い学びを豊かにするICTの効果的な活用

##### ア、これまでの学びの良さの上に立ったICT実践の推進

「トライ&エラー」を基本スタイルとして事例を蓄積し、その実践を公開する  
ICT活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の広がり効果を検証する

##### イ、教科を超えて活用する学び方の共有と実践・検証の提案

ICT端末の操作方法など目的に合わせて自ら判断できるように促す【③アとの関連】

#### ③先に進んだ「共に創る授業」の推進 「附中×GIGA」＝附中版GIGAスクール構想

##### ア、「附中×GIGA」の推進とICTスクールサポーターズの組織的な運用

ICT活用で育む自主性を「個別最適な学び」につなぐ。  
学びの環境づくり（学習道具としてのICT/娯楽の道具から脱却）を生徒の言葉で発信する  
子どもたちが場面によって判断ができるようになる集団の基盤づくり

##### イ、資質・能力（情報活用能力）の設定と共有

情報モラル学習

## 3. 研究計画

4	6	水	全体連絡会（年度始提案）	9	7	水	授業研②【社】
	27	水	授業研①【数】公開研1次提案		14	水	校内研⑨
5	11	水	校内研①指導案審議（G）	10	12	水	授業研③【国】
	25	水	校内研②めざす生徒像		19	水	校内研⑩ICT実践交流会Ⅱ
6	8	水	校内研③指導案審議（G）	11	9	水	授業研④【数】
	13	月	校内研④指導案審議（全）		24	木	授業研⑤【音】
	22	水	授業研②ICT実践交流会Ⅰ	12	15	木	校内研⑪
	29	水	校内研⑤指導案審議（G）	1	25	水	授業研⑥【英】
7	6	水	公開研前日準備【オンライン】	2	1	水	授業研⑦【体】
	7	木	公開研究発表会1【技英理】		15	水	校内研⑫ICT実践交流会Ⅲ
	8	金	公開研究発表会2【数美社】	3	1	水	校内研⑬総括・次年度方向性
	13	水	校内研⑥公開研・研究振り返り	教科部会：週1度程度授業に位置づける 教科主任会：月に1度程度 研究の活性化 研究紀要：実践事例集（HPにて発信）			
8	2	火	校内研⑦生徒指導研修				
	31	水	校内研⑧次年度研究について				

研究発表会は、国・社・数・理・技・美・体・英を実施。 技家は毎年実施 音・美は隔年